

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.87  
1月号

2013年1月15日発行

## 迎春

2013



# さらに輝く京丹波町へ確かな歩みを



今月の表紙

今回は、今年の干支「巳」をイメージしたものです。今年1年が皆さまにとって、幸多い年となることをお祈り申し上げます。

## NO.87 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 2012年を振り返る  
京丹波のおもなできごと
- 6 地域とつながる林業大学校
- 8 子どもたちの声が校舎に響く  
サタデーアートワークショップ in 京丹波
- 10 Dr's Message いきいき健康術
- 11 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2013
  - 一致団結して優勝
  - 一女性の健康フェスティバル
  - 福祉の輪の広がりを目指して
  - 一福祉まつり
  - 地域活性化の拠点づくり
  - 一畑川ダムさくら苑植樹作業
  - 障害者の社会参加へ決議
  - 一身体障害者福祉大会
  - 迎春準備 大しめ縄作る
  - 一京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄づくり
  - 手作り商品などでにぎわう
  - 一わちふれあい祭り
  - 掘り出し物を求め大盛況
  - 一すくすくマルシェ
  - 差別のない地域づくりへ
  - 一人権講演会
  - 農林業振興の功績に対し表彰
  - 一農林水産フェスティバル
  - 教育指針策定へ諮問
  - 一教育振興基本計画策定会議
  - 地域の代表が共に考える
  - 一区長会全体研修会
  - 新そばづくしてPR
  - 一瑞穂新そばまつり
  - たすきつなぎゴールへ
  - 一町駅伝競走大会
  - 生徒ら協力して調理
  - 一パートナーズスクール事業
  - 冬の到来を告げるイベント
  - 一冬ほたる

**新** 年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、平成二十五年度の輝かしい希望に満ちた新春をご家族お揃いでお迎えになら



京丹波町議会議長  
野口久之

また、東日本大震災により被災し、今もなお避難生活を続けられている友好町、福島県双葉町への支援については、スポーツ少年団の子どもたちによるジャガイモを送る取り組みのほか、社会教育委員の呼びかけに応じ、町民の皆さまが提供された秋の味覚を届ける活動も行われるなど、同町の復興に向け、息の長い支援が今後も望まれるところです。

一方、本町は、財政運営の面において依然として厳しい状況に置かれています。こ



京丹波町長  
寺尾豊爾

のような中、国の経済対策や合併特例措置による地方交付税の増加、財政健全化への様々な取り組みなどの成果により、着実に改善傾向にあります。今後も安定した行財政基盤の確立を目指して財政健全化対策を推進していきます。

そして、京丹波町がさらに輝きを増し、町民の皆さまが誇りに思っていただけけるまちとするため、四月からの町内全小中学校での完全給食の実施、平成二十六年年度完成予定の京都縦貫自動車道に隣接

**町** 民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。平成二十五年度の輝かしい新春をお迎えになりましたこと、心からお喜び申し上げます。

さて、平成二十二年十一月に町長に就任し、三年が経過いたしました。この間、皆さまには、『安心』『活力』『愛』のあるまちづくりの推進にご理解・ご協力をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

振り返りますと、昨年は四年に一度のスポーツの祭典である「オリンピック」がロンドンで開催され、世界中を感動の渦に巻き込みました。皆さまもアスリートたちがメダルを目指して懸命に頑張る姿に心を打たれたのではないかと思います。また、学術分野では山中伸弥京都大学教授

れましたこと拝察申し上げ、議会を代表し、心からお喜び申し上げます。

新年を迎え、議員一同新たな決意のもと、町民生活の向上と福祉の増進に全力で取り組んでまいりますので何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、我が国では、依然として厳しい経済環境が続くなか、本町においても厳しい財政運営を迫られているところであります。その閉そく感や停滞感を打ち破り、安らぎと心にゆとりを持った真に豊かな時代にするためには、経済的な豊かさばかりを追求するのではなく、一人ひとりの勇気ある第一歩がこのような時代だからこそ、益々必要となつてきているように思っています。

そのような中、二元代表制の議会では、執行部のチェック監視をしっかりとしながら、車の両輪のごとく連携し、少子・高齢化対策、農林商工業の振興、福祉施策・教

する地域振興拠点施設（仮称）ハイウェイテラス・京たんぼ」の整備などに積極的に取り組んでまいり所存ですので、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

後になりましたが、今年も町民の皆さまにとりまして、幸多く笑顔の絶えない一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

が日本人としては二人目の受賞となるノーベル生理学・医学賞を受賞されるなど、明るい話題の多い一年でした。

本町におきましては、全国的な医師不足の中、新たに京丹波町病院に二人、和知診療所に一人の常勤医師を迎えることができました。地域医療を確かなものにし、充実させることで、町民の皆さまが安心して暮らせる京丹波町へ、また二歩近づいたのではないかと考えております。このほかにも、西日本で唯一の林業専門の大学校である京都府立林業大学校の開校や、分水嶺に位置する本町にとって、念願でありました畑川ダムの本体工事の完成による湛水の開始など、町政は将来の発展に向けて着実な歩みを進めています。

育環境の充実、防災・危機管理体制の強化、資源循環型に向けた環境対策、生活関連基盤の整備などに全力をあげ、一人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまちのため、町民の皆さま方が住みやすく、ゆとりと生きがいを感じ、夢と希望のもてる京丹波町を築くため、力を惜しむことなく鋭意努力してまいります。

また、町民の皆さまの意見の反映や積極的な情報提供に努めるとともに、議会の機能強化と開かれた、より透明性の高い議会を目指し、さらなる議会の活性化に取り組みでまいりますので、町民の皆さまの格段のお力添えを賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

結びに、この一年が、皆さま方にとって幸多い年でありませう心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

# 2012年を振り返る

## 京丹波のおもなできごと



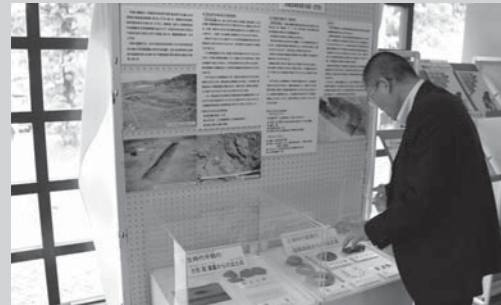
成人式



ラッピングバス運行開始



林業大学校開校



蒲生野古墳群新遺構発見



町消防操法大会



町長と語るつどい

1月

- 町消防団が出初式を開催(8日)
- 新成人174人が参加し成人式開催(8日)

2月

- 町観光協会が食を生かした観光のあり方を考える「観光シンポジウム」を開催(15日)
- 須知高校生の手により制作された「ラッピングバス」が運行開始(16日)
- 猪鼻区と(株)京都環境保全公社が、災害時の施設利用などを定めた防災協定を締結(23日)

3月

- 京都府立林業大学校地域連携協議会が発足(21日)
- 友好町双葉町支援のため、派遣団が埼玉県加須市の避難所を訪問(21日・22日)

4月

- 町立医療機関で常勤医師として新たに内科医2人、外科医1人が着任(1日)
- 蒲生野古墳群から新たな時代の遺構を発見(19日)
- 上豊田保育所下山分園が休園
- 京都府立林業大学校が開校

5月

- 出会いサポート事業「わち山野草の森deときめきツアー」を開催(13日)
- 水原区で高齢者交通事故防止モデル地区事業実施に伴い、京都府警察が地区住民10人を委員に委嘱(17日)

6月

- 役場および各支所で放射線量測定器の貸し出しを開始(1日)
- 町消防操法大会が開催。ポンプ車操法の部で和知支団第三分団、小型ポンプ操法の部で丹波支団第四分団が最優秀賞を受賞(3日)
- 亀岡市の交通事故を受け、町内の国道などの危険箇所を確認(6月25日、7月17日)
- 町長と語るつどいを町内22会場で開催(6月29日～9月6日)
- 全国的な電力不足に伴い節電対策を推進する「町節電対策本部」を設置

7月

- 町内2カ所目となる都市公園「須知公園」の開園を祝い、開園式が開催(31日)

8月

- 在宅介護の相談窓口「介護よろず相談所」を町内11カ所に開設(1日)
- 府消防操法大会が丹波自然運動公園で開催。小型ポンプ操法の部で丹波支団第4分団が2位入賞(5日)
- 今後の林業振興と森林資源の活用などの指針を策定する「町森づくり基本計画策定委員会」が発足(6日)
- 約1,500人が参加し、夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会が開催(23日)
- 京丹波夏まつり(5日)、みずほ夕涼み大会(12日)、わちふるさと祭り(25日)が開催される

9月

- レトロロックフェスティバルin京丹波が開催される(30日)

10月

- 出会いサポート事業「グリーンランドみずほdeときめきツアー」を開催(8日)
- 友好町双葉町へ新米などを届ける「京丹波の秋の恵みを届け隊」が行われる(25日～26日)
- 丹波くりの生産拡大を目指し京都丹波くり生産振興大会が開催される(30日)

11月

- 畑川ダムの本体工事が完成し、試験湛水を開始(1日)
- 京都丹波ロードレースを開催(3日)
- 和知北部地域を対象に原子力災害住民避難訓練を実施(4日)
- 瑞穂環境保全センターの埋め立て量を変更する覚書を(株)京都環境保全公社と締結(7日)
- 町文化祭が開催される(10日～12日)
- 丹波自然運動公園と須知高校を会場とし「京丹波 食の祭典」を開催(18日)

12月

- 町の教育振興の指針を定める「町教育振興基本計画策定会議」が発足(3日)
- 琴滝で「冬ほたる」が開催される(7日～24日)



須知公園開園



夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会



京丹波の秋の恵みを届け隊



畑川ダム湛水式



原子力災害住民避難訓練



京丹波 食の祭典

# 地域とつながる 林業大学校

平成24年4月に町内に開校した京都府立林業大学校。  
学生たちは将来の日本の林業を担う人材として、実践的な技術や知識の習得に励んでいます。  
町内を実習場所として、地域を知り、地域住民とふれあう共同作業の様子などをお伝えします。

## 地域と共同事業



林業大学校が地域住民との初の共同作業の場としたのは下大久保でした。  
同地区では、地域住民で組織する「下大久保虹の村づくりの会」が、地域活性化を目的に様々な活動を展開。昨年からは、都市住民との交流を目的としたシイタケの菌打ち体験に取り組みんでいます。今回の活動は、この体験に使用する原木の伐採作業を、林業大学校生と共に行うことで、林業専門である大学校の技術を間近で見ること、学生との交流を図りたいとの地元地域の思いから実現。林業大学校側も、共同作業を通して住民との交流が行えることと、実習の場が確保できることもあり、両者の思いが一致しての共同作業となりました。

十二月八日、下大久保地内にある地域住民が整備した梅林付近に集合した虹の村づくりの会のメンバーと林業大学校の学生および関係者ら約三十人は、同校の志方隆司教授から伐採する木の種類の説明や、伐採時に注意すること、けがから体を守るための衣服などの説明を受けた後、三つの班に分かれて志方教授をはじめとした大学校の教員の指導を受けながら、梅林周辺のコナラを慎重に伐採しました。  
作業は、学生たちがチェーンソーを使い、切り倒して一メートル程度に切った木を参加者全員で協力して保管場所へ運びました。学生らは、コナラなどの広葉樹の伐採は初めてだったことから、教授などから説明があった注意点を気をつけながら伐採していました。



作業後に、たき火にあたりながら談笑する参加者



林業大学校生が切った木を運ぶ地域住民

## 作業後は楽しく交流



正午には予定していた百本を越える「ほだ木作り」が終わり、参加者らは、下大久保公民館へ移動。昼食として地元の方が用意された、下大久保で採れた米を使ったおにぎりなどを食べながら交流を深めました。  
昼食時には、下大久保区の西田哲さんが平成十八年から同区で始まった虹の村づくりの会の活動内容を紹介。京都府の「地域力再生プロジェクト支援事業交付金」を活用した梅林の造成事業や、京都学園大学との協働事業をきっかけに作られ、十二月十八日の京丹波食の祭典(二〇一二)で準グランプリを受賞した「耳うどん」作りなどの説明が行われると、学生らは、地域が活性化のために行う活動に興味津々な様子で聞いていました。



おにぎりを食べながら交流する参加者

## 旧和知第二小のイチョウ土壌改良



### 地域のシンボルに元気を

今回の下大久保区での取り組みのほかにも、林業大学校では町内を実習場所とした取り組みが進められています。

十二月十四日、篠原地内の旧和知第二小のグラウンド脇に立つイチョウの木周辺の土壌改良が行われました。

近年、同樹木の先端に夏でも葉をつけなくなったことから、昨年、府緑化センターの樹木医伊藤武さんが診断を行い、このイチョウは、周囲の土壌の状態が原因で力を失いかけていることを指摘。町と林業大学校が協議し、森林保護を行う樹木医の技術を学ぶ機会として林業大学校が取り組むこととなりました。

イチョウの周辺に集まった学生らは、伊藤さんと同じく樹木医の宗實久義さんらの指導を受け「エアースコップ」と呼ばれる空気圧で土を取り除く機械を使用して、根を痛めないようにイチョウの周辺を十字に掘った後、木が力を取り戻すために必要な、水や栄養を吸いやすいように、土壌改良資材などを土とともに掘った穴に入れました。また、あらかじめ地域の人たちにはこの取り組みが連絡してあったため、地域のシンボル、イチョウを元気にするための作業の見学に訪れていました。

### 地域に密着した大学校に

林業大学校では、地域に密着した学校運営を進めるため、学生が地域のイベントに参加したり、教員も地域の高齢者講座の講師を務めたりと活動されており、今後もより地域に根ざした学校とするためにも、このような活動は継続される予定です。

一方で、下宿先の不足が課題になっており、大学校と町や京都府立林業大学校地域連携協議会(上田秀男会長)が連携して下宿確保の取り組みが進められています。

また、大学校が隔月で発行する「京林大だより」でも、下宿先となる情報を募集しています。

本年四月には新たな学生を迎えられる林業大学校。またまた修学の拠点となる住まいが求められています。

空き家や空き部屋など、下宿先として提供いただける情報がありましたら、府立林業大学校(84-2401)か町和知支所(84-0200)へご連絡ください。



掘った穴に土壌改良資材を入れる学生

# 子どもたちの声が校舎に響く

## サタデーアート ワークショップin京丹波

平成22年3月に瑞穂地域の4小学校が  
統合し廃校となった旧質美小学校。

本年4月からは、地元質美地域が同小学  
校を「質美笑楽講」と名づけ、地域での活用  
が進められています。

この質美笑楽講においてこのたび行わ  
れた「サタデーアートワークショップ」。取り  
組みの様子などをお伝えします。



近くを流れる川の流れをイメージして演技。  
写真左は川那辺さん

### ワークショップ開催の きっかけ

このワークショップを開催したのは、  
B.R.D.G. 舞台演出や自ら俳優としても  
活躍される山口恵子さんと、舞台製作の  
調整・管理などを行われている川那辺  
香乃さんによるグループです。京都・大阪  
などで活動する二人が今回、会場として  
選んだのは、昨年三月に瑞穂地域の四小  
学校統合により廃校となった旧質美小  
学校。昨年九月に明隆寺観音堂(下粟野)  
での演劇公演に、「トリコ・Aプロデュー  
ス」のメンバーとして参加した川那辺さ  
んが、もともと本町を知りたいという思い  
と、地域で暮らす子どもたちに演劇など  
に触れてほしいという思いから企画。会  
場を探していたところ、廃校後、地域で活  
用が始まった質美笑楽講を知ったことか  
ら、この地での開催となりました。

### 子どもたちが豊かな 表現力を発揮

今回のワークショップは、十一月の毎週  
土曜日に開催され、京丹波町と南丹市の  
小学生や、幼児が参加しました。各回と  
も音楽・演劇などの分野で活躍される方  
が講師となり、子どもたち自身が、自ら  
感じたままに表現し、個性を発揮できる  
取り組みが行われました。  
初日の三日には、「ボディースケッチ」

カラダでお絵かき」と題して、山口さん  
が講師となり、体を使って風景を表現す  
るワークショップを行いました。

参加した子どもたちは、山口さんと校  
舎周辺を散策して校庭の木々や、学校周  
辺の風景を観察し、教室内で子どもたち  
がそれぞれ観察したものを、体全体を  
使って表現していました。子どもたちは、  
木になっていた硬い実を、力いっぱい握っ  
た拳で表現したり、校舎周辺の植木を、  
木の枝ぶりを示すように、両手と片足を  
上げて、ダイナミックに表現したりと、そ  
れぞれの感性をもとにユニークなボ  
ディースケッチを見せ笑い声の絶えない  
にぎやかな時間を過ごしました。



子どもたちは役に合ったせりふを考え熱演



校舎周辺を観察する山口恵子さんと子どもたち

最終日となった二十四日は、午前と午  
後の二講座が開催。午前中は、トリコ・A  
プロデュースを主宰する山口茜さんが講  
師として参加。この日は、地元の中学生と  
高校生二人もサポート役として加わり、  
「はじめてのドキドキ演劇体験！」とし  
て、数人ずつ分かれた子どもたちが、山  
口さんからそれぞれ大まかな設定が指  
示された後、各自が考える役割を演じま  
した。

演じた子どもたちは、相手が思ってい  
た想定と違う指示を受けていたりする  
中、二人ひとりが自分で考えて、思うま  
まの言葉で立派に演じていました。  
このほかワークショップでは、演劇や音  
楽を体験するほかにも、日常ではなかな  
かできない体験も行われました。

十一月十日のワークショップでは、最後  
には、子どもたちが教室前の廊下約三十  
メートルを一気に駆け抜け、今日だけは  
誰にも注意されない楽しさを満喫してい  
ました。  
また、十一月二十四日には、長い廊下を

### 積極的な活用で 活力ある地域へ

今回のサタデーアートワークショップ  
を企画した川那辺さん。「今回は期間限  
定のものでしたが、これからも子どもた  
ちが集い、楽しく演劇や音楽などのアー  
トに触れる機会を作っていきたい」と話  
していました。

廃校となってもうすぐ二年を迎える  
旧質美小学校。今回のワークショップ以  
外にも絵本屋に喫茶スペース、パソコン  
教室など、多彩な取り組みが行われてい  
ます。地域の人が集い、また、地域外から  
も多くの人が訪れる、活気あふれる拠点  
施設を目指して今後も積極的に活用さ  
れます。



全力で廊下を駆け抜ける子どもたち

Dr's Message

# いきいき健康術 第65回

## 『ノロウイルス胃腸炎 感染予防の“三種の神器”』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、京丹波町病院小児科医師の細井創先生。ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防に関するお話です。

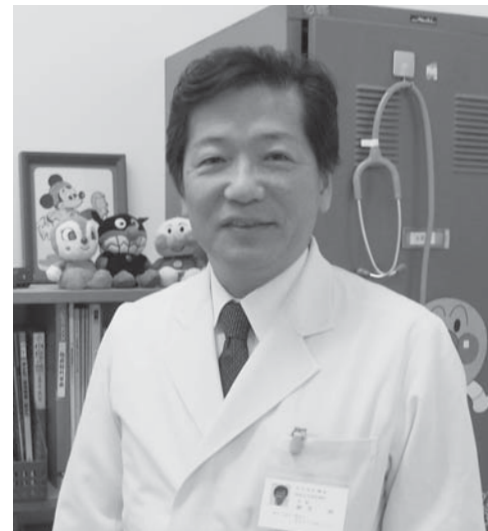
### 突

然の嘔吐、そして下痢。子どもだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんまで、次々に…。今年もノロウイルスによる感染性胃腸炎流行の季節になりました。ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防についてお話しします。

ノロウイルス感染予防の「三種の神器」は、①せつけん、②手袋、③漂白剤です。

患者の便や吐いた物は、大量のウイルスと一緒に排出されますので、予防のために食事の前やトイレの後にはせつけんを使い、流水でしっかりと手を洗いましょう。便などの処理をするときは、素手で触らずに必ずビニール手袋を使用してください。汚物の消毒は、乾燥する前に市販の塩素系消毒剤（漂白剤）を希釈して行ってください。汚物が乾燥するとウイルスが宙を舞い、それを吸い込んで感染することもあります。

そのほか、タオルなどは個人専用のものにして、共用で使用しないことが重要です。食品中のウイルスは、しっかりと熱を通すことにより感染性をなくすことができます。目安は85℃で一分以上の加熱といわれています。下痢や嘔吐などの症状がある人は、食品を直接取り扱う作業を



小児科医師 細井 創先生 (京丹波町病院)

しないことも肝要です。もしもお母さんが発症したときは、無理して二家の食事を作らせたりすることのないよう、家族皆で協力して休ませてあげてくださいね。

#### 京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。  
☎ 86-0220

### 一致団結して優勝

#### ■女性の健康フェスティバル

福知山市の三段池公園で十一月十一日、第二十七回京都女性の健康フェスティバルが開催され、本町からも町女性の会の会員約四十人が参加しました。

このイベントは、会員相互の健康増進と親睦を目的に、府内各地で会場を移して開催しているもので、今回は九つの郡および市の会員が参加しました。

フェスティバルでは、綱引きやリレー、玉入れなど六競技が行われ、本町の会員らは、毎年勝利している綱引き（京都府知事賞）のほか、増進と親睦を目的に、府内各地で会場を移して開催しているもので、今回は九つの郡および市の会員が参加しました。



フェスティバルに参加した女性の会の皆さん(福知山市)

### 福祉の輪の広がりを目指して

#### ■福祉まつり

町社会福祉協議会および町社協ボランティアバンク運営委員会が主催する第一回福祉まつりが十一月二十三日、和知ふれあいセンターで開催されました。

このイベントは、社会福祉協議会や町内のボランティアサークルの活動を紹介し、新たに活動に参加する人を増やしていくことで、高齢者や障害のある人が普通に生活できる地域づくりを目指して、初めて開催されました。

今回の福祉まつりでは、日頃のボランティア活動を評価された個人二百九十七人と三十九団体がボランティア活動功労者表彰を受賞。会場では、受賞者を代表して地区内でふれあいサロンの運営などの

活動を行うグリーンハイッなごみ会の大塚政雄さん(下山)のほか、個人二人と四団体に感謝状が贈呈されました。

また会場内では、町民の皆さんから提供いただいた物品を販売するふれあいバザーが行われ、来場者からは、所狭しと並ぶ物品の中から、欲しい物を購入していました。



表彰を受ける大塚さん(和知ふれあいセンター・本庄)

### 地域活性化の拠点づくり

#### ■畑川ダムさくら苑植樹作業

畑川ダム周辺の環境整備による地域活性化を目指す畑川ダム周辺地域整備推進協議会(山西強会長)によるさくら苑植樹作業が十一月二十五日に行われました。

この取り組みは、間もなく完成を迎える畑川ダム周辺の景観を整備することで、一帯を二大観光拠点化するための取り組みの一つ。作業およびさくら苑整備を記念して行われた式典には、下山地内から多くの住民が参加しました。

式典では、山西会長が「下山地域の間近に見える所にダムが建設されました。ダム湖周辺が整備されることにより地域活性化の原動力になることを願っています。」と建設されたダムおよびダム湖が、



協力して苗木を植える参加者(畑川ダム周辺・下山)

下山地域全体の活性化に結びつくことを願ってまいりました。植樹作業では、住民らが地区ごとに分かれ、ダム施工業者の協力により掘られた穴に、ヤエザクラ、シダレザクラ、ヤマモミジの苗木を入れ、見事な花や紅葉を見せてくれることを願い、植え付けを行いました。

### 障害者の社会参加へ決議

#### ■身体障害者福祉大会

町身体障害者福祉会(いちだん静夫会長)主催の第七回京丹波町身体障害者福祉大会が十一月二十七日、和知ふれあいセンターで開催され、同会の会員や関係者が参加しました。

この大会は、障害のある人が暮らしやすい地域社会を目指して、町内の障害者および関係者が参加したもので、今回は「障害者の社会参加と自立を目指して」をテーマに開催されました。

大会では、町身体障害者福祉会会長表彰として、自立更生者の部に上原勲さん(高岡)、山内まつの

さん(橋爪)、泉きよさん(安栖里)の三人を、援護功労者の部は中道重夫さん(西河内)に表彰状が授与されました。

また、野間光代さん(坂原)が「予感から現実となつてしまつた左脳内出血」と題して体験発表を行いました。野間さんは、昨年七月に体験した脳内出血により入院した四カ月間に、夫や娘が忙しい中、たびたび病院に来て背中を拭いたりして介護してくれたことに家族の絆を感じたことや、退院後も頑張つてリハビリに通つたことで随分良くなったと言われて涙が出たことなどを発表しました。

このほか、「町障害者基本計画お

よび障害福祉計画の完全達成」や「障害者福祉行政の市町村間における格差の解消」など六項目を決議しました。



自立更生者の部で表彰を受ける上原さん(和知ふれあいセンター・本庄)

### 迎春準備 大しめ縄作る

#### ■京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り

尾長野区内の恒例行事となつている京都祇園八坂神社に奉納する大しめ縄づくりが十二月十六日に行われました。

このしめ縄は、例年初詣に約百万人が訪れる同社の本殿などに飾られるもので、御分社がある同区内において、五月末に行われた御

田祭で植えた稲を区民らが今秋に収穫。そのわらを使つて作業が行われました。

作業に参加した区民らは、直径約六〇センチメートル、長さ約三・五メートルの大しめ縄三本などを協力して編み上げました。

今回作られたしめ縄は、二十四日に住民らの手により京都祇園八坂神社へと届けられ、同社により本殿などに飾り付けられました。



協力して縄をなう住民ら(尾長野地内)

### 手作り商品などにぎわう

#### ■わちふれあい祭り

十二月一日、道の駅「和」において、わちふれあい祭り二〇一二が開催されました。

このふれあい祭りは、平成十七年の合併以前から行われていた「わち大好きまつり」を引き継いで開催しているもので、町内外の団体などが飲食物や日頃のサークル活動で取り組んだ作品を販売。この日は、朝からあいにくの雨降り、気温も低かつたことから、温かい汁物などを販売するブースが、来場者の人気を集めていました。

また、大道芸やご当地アイドル「KT0771」のショーも開催。アイドルグループの歌声が聞こえると、会場内の来場者が集まり、ショーに見入っていました。



販売される商品を手取る来場者(道の駅「和」・坂原)

### 掘り出し物を求め大盛況

#### ■すくすくマルシェ

十一月二十五日、第二回ベビー&キッズ用品フリーマーケット「すくすくマルシェ」(町教育委員会主催)が和知ふれあいセンターアリーナで行われました。



子どもに似合うものを買求める母親たち(和知ふれあいセンター・本庄)

この取り組みは、押入れに眠っている出産用品や衣服、絵本などをフリーマーケットとして提供していただき、子育て支援と地域・世代間の交流を図るもの。昨年初めて企画され、好評だったことから今年も実施されました。

### 差別のない地域づくりへ

#### ■人権講演会

十二月四日から十日までの人権週間に関連した取り組みとして、十二月一日、和知ふれあいセンターで人権講演会が開催されました。講演会では「今伝えておきたいこと」が人らしく生きるために「〜」と題して、シナリオライターとして活躍される丘乃れいさんが講演しました。

丘乃さんは同和問題をテーマにした作品に初めて取り組んだ際、この問題が何も分からず悩んだことや、取材で出会った人たちのエピソードを紹介し、「人を否定するのは簡単なこと。相手の良い部分を時間をかけてでも見つけていく



同和問題を通して人権の大切さを語りかける丘乃さん(和知ふれあいセンター・本庄)

ことが地域社会を円滑にしている秘訣です」と、来場者に対して地域で暮らす人同士が、仲良く差別のない関係を築いていくための方法を語りかけていました。このほかにも、人権週間の啓発活動として、同日には町内三カ所で人権啓発推進協議会の委員が街頭啓発を実施。和知地域では、道の駅「和」で啓発活動が行われ、人権擁護委員の皆さんや寺尾豊爾町長などが、啓発物品を配り、人権尊重を訴えていました。

### 農林業振興の功績に対し表彰

#### ■農林水産フェスティバル

京都府内で生産される農林産物などの消費拡大を目指した取り組みである京都府農林水産フェスティバル二〇一二が十二月一日と二日、京都府総合見本市会館で開催されました。

一日に行われた表彰式では、日頃から京都府内の農林水産業の振

興に尽力され功績のあった方の表彰および府内の農山漁村における優秀な技能者への認定証を交付。受賞した人らは、喜びの表情を見せていました。本町からの受賞者は次のとおりです。(敬称略)

また、表彰式では、京都府丹波くろ品評会全体賞の表彰式も行われ、町内からは山内善継さん(市場)、白樫貢さん(下乙見)、木材開発(株)

が受賞しました。

#### 農林水産業功労者表彰

▼農林水産業者/杉山明(下山)

▼団体役員/太田英生(安井)

▼団体/丹波酪農ヘルパー利用組合(野村正直代表)

農山漁村伝承優秀技能認定者

▼農の匠/太田嘉昌(富田)

▼山の匠/山内善継(市場)



受賞者の皆さん。前列左から山内さん、太田嘉昌さん、太田英生さん、杉山さん、後列左は野村さん(京都府総合見本市会館・京都市)

### 教育指針策定へ諮問

#### ■教育振興基本計画策定会議

十二月三日、町和知支所において第一回京丹波町教育振興基本計画策定会議が開催されました。この会議は、本町の学校教育を中心に、社会教育も含めた教育全般の指針を定める京丹波町教育振興基本計画の策定を目的とするもの。会議の冒頭には、朝子照夫教育長から同計画の策定委員として、府教育振興プランの策定にも携わられた佛教大学教育学部長の原

清治教授を含む十人に委嘱状が交付されました。会議では、原教授を委員長に選出後、朝子教育長から原委員長に計画策定について諮問書が手渡されました。事務局から「京丹波町教育の指針」に基づき本町の学校教育および社会教育の現状と課題の説明を受けるなど、委員らは計画策定に向け状況把握を行っていました。同委員会では、今後アンケートやパブリックコメントなどを行い、



平成二十五年度中の策定に向け、協議を進めます。

委嘱状の交付を受ける原委員(写真右)(町和知支所・本庄)

### 地域の代表が共に考える

#### ■区長会全体研修会

道の駅「和」道路情報センターで十二月二日、町区長会の全体研修会が行われました。

この研修会は、同会が毎年開催しているものですが、今回は研修内容を見直し、これからの地域づくりの展望を共に考えていくことを目的とし、「地域づくりフォーラム」と題して開催。町内で活発に地域づくりに取り組まれている三団体の事例発表のほか、発表者などがパネリストを務めたパネルディスカッション、今回の研修会に参加

した区長の皆さんも参加したワークショップなどが開催されました。

事例発表では、竹野地域活性化委員会(仮称)準備委員会、下大久保村づくりの会、京丹波町北部振興会の三団体の代表が、それぞれの地域で行っている取り組みを紹介しました。竹野地域で今年度中の集落連携組織立ち上げに向けて取り組む竹野地域活性化委員会(仮称)準備委員会代表の中西和之さんは「とりあえずやるやないか」をキーワードに、取り組む活動を映像を交えて紹介。組織を先に作るのではなく、共感を呼ぶ取り



地域の取り組みを発表する中西さん(道の駅「和」道路情報センター・坂原)

組みをしながら、組織づくりを進めていることを説明しました。参加した区長らは、それぞれの地域で進む取り組み事例を熱心に聞いていました。

### たすきつなぎゴールへ

#### ■町駅伝競走大会

十二月八日、第八回京丹波町駅伝競走大会が開催されました。

この大会は、町体育協会と町教育委員会が主催するもので、今回はクラブ活動や地区などでチームを編成し、七部門に三十三チーム約二百人が参加しました。

ランナーは、森のふれあい広場を発着点とする、瑞穂支所周辺の松山商店街を周回するコースを、

小学生は六区間六キロ、中学生以上は五区間八・二五キロをゴール目指してたすきをつなぎました。また、会場内では、町女性の会の皆さんがおにぎりや豚汁を振る舞い、レース後の参加者らは、それぞれチームごとに集まって、温かい豚汁などを食べながら、レース内容を振り返っていました。

レース後には、山村開発センターみずほにおいて、十月に実施された本町の友好町福島県双葉町へ



一般男子の部のトップでゴールするランナー(森のふれあい広場・和田)

の支援事業「京丹波の秋の恵みを届け隊」の活動をまとめた映像が流され、参加者らは、町内で募集された新米などが届けられた活動の様子に見入っていました。

### 生徒ら協力して調理

#### ■パートナーズスクール事業

十一月二十七日、丹波ひかり小学校において環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業が開催されました。

この事業は、町内の小学校と、須知高等学校、附属牧場がある京都大学大学院の生徒らが環境や食を通して共に学びあうもの。今年度最後の取り組みには、丹波ひかり小の児童四十七人と須知高等学校食品科学科の二年生十三人、京都大学大学院情報学研究所の学生二人が参加しました。

今年度は「土から食卓まで」を結

ぶ農と食」をテーマに、トウモロコシの栽培を中心に学んできました。

この日は、「丹波高原レストラン」と題し、参加者らがトウモロコシを使った「ポトフ」と「蒸しパン」づくりに挑戦。小学生は、高校生や大学院生に手伝ってもらいながら、具材となる野菜やソーセージを調理していました。

完成後には、参加者全員でテーブルを囲み、トウモロコシの甘みたっぷりのメニューを楽しんでいました。

また、今回は京都大学大学院生の吉田奈緒さんが「トウモロコシ料理の秘密」と題して、トウモロコシの調理方法がその国の文化や日常生活



協力して調理する生徒ら(丹波ひかり小・曾根)

べているものによって違うことや、海外で行われている調理法などをスクリーンを使って紹介すると、参加者らは興味深そうな表情で聞いていました。

### 新そばづくしでPR

#### ■瑞穂新そばまつり

十二月十六日、旧梅田保育所内の瑞穂そば体験道場において瑞穂新そばまつりが開催されました。

今年で三回目の開催となったそばまつりは、瑞穂地域を中心に栽培している「瑞穂そば」を広く周知・普及させることを目的に、そばの生産、加工、販売に関わる人たちが組織する京都瑞穂そば振興会が取り組んでいるもの。約四百人の来場者が今年採れたばかりのそばの味を楽しんでいました。

まつりでは、当日の朝から仕込んだ打ちたてざるそばやそばめしのほか、会場でついたそば餅を使っただんごの販売も行われました。また、そば打ちの実演やそば打ち体験も行われ、来場した子どもたちは、珍しいそば打ちを楽しんでいました。



来場者でにぎわう会場(瑞穂そば体験道場・鎌谷下)

### 人の動き

(敬称略)

#### ■教育委員(任期四年)

【新任】藤本英子(大倉)

【再任】教育委員長職務代理者／大西弘二(質美)

【退任】梅原千里(市場)

#### ■公平委員会委員

【任期三年】

【再任】山本和之(高岡)

#### ■固定資産評価審査委員会委員

【任期三年】

【新任】野間雅彦(坂原)

【退任】野間久雄(本庄)

### 義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,934,728円
復興支援募金	5,206,474円

\*平成24年12月31日現在

### わたしたちの町

人口	16,254(-21)
男	7,674(-11)
女	8,580(-10)
世帯数	6,464(-9)
1月1日現在( )は前月比	



# 冬の到来を告げるイベント

## ■冬ほたる

十二月七日から二十四日まで、市森地内の琴滝公園一帯で冬ほたる二〇二二が開催。期間中、週末を中心に京阪神などから多くの方が訪れ、冬の風物詩となったイルミネーションイベントを満喫していました。

十二月七日に行われた点灯式では冬ほたる実行委員会の今西和寿委員長が開園を宣言。公園入口での点灯に続き、須知幼稚園の園児によるカウントダウンにより琴滝に飾られたイルミネーションが一斉に点灯しました。

十二月十九日および二十日には、これまでの冬ほたるの取り組みで知り合い、今年結婚された由良康博さん・直子さん夫妻と堀井慎二さん・久美子さん夫妻のウエディングイベントが開催。二組とも来場



鮮やかなLED電球で彩られた公園内。写真左は琴滝（琴滝公園・市森）

者に祝福され、幸せいっぱい笑顔を見せていました。

また、期間中の週末には、十一月十八日の「京丹波 食の祭典二〇一二」で行われた屋台グランプリで入賞したメニューも販売され、来場者らは、京丹波鴨ねぎバーガーなどのご当地グルメを味わっていました。



多くの方が並ぶ「京丹波鴨ねぎバーガー」の屋台



来場者に祝福されステージへと向かう由良さん夫妻(左)とステージ上で満面の笑顔を見せる堀井さん夫妻(右)

## 京丹波町のシンボル

【町の鳥】  
うぐいす



【町の木】  
イチョウ



【町の花】  
つつじ



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、不慣れた広報担当がご迷惑をおかけしました。本年も皆さまにとって読みやすい紙面づくりに向けて努力していきたいと考えています。年末に取材に訪れた冬ほたる。今年は取り組みのシンボルとなる雪の結晶をイメージしたロゴも作られ、地域を代表する冬のイベントとして定着してきました。会場では、65万個のLED電球が琴滝一帯を照らし、多くの来場者を幻想的な世界へ導いていました。この冬ほたるの明かりのように、町民の皆さんにとって、2013年が輝かしい一年となるようお祈り申し上げます。(T)

【おわびと訂正】広報京丹波第86号の13ページ、「壇野恭介社長」は「檀野恭介社長」の誤りでした。おわびして訂正します。